

支払高 計画上回る38億円 農産物が好調 J A さつない

2021年5月22日

J A さつない（高橋秀樹組合長、組合員174人）の第73回通常総会が21日、同 J A で開かれた。コロナ禍による需要減少を背景に、一部の農畜産物の価格が下落したが、農畜産物支払高（交付金を除く）は38億6,800万円、経常利益は6,425万円を確保し、ともに計画を上回った。

総会は、新型コロナウイルス感染防止のため書面議決を中心に開催した。高橋組合長は「小豆の消費が落ち込んだ。酪農、畜産では個体販売や枝肉価格が下落したが、支払高、経常利益は計画以上の成果を上げられた」とあいさつした。

農畜産物支払高の内訳は、農産物は小豆の価格が下落

したもの、野菜全般の作柄や価格が平年並みに推移したため計画を6.5%（1億2,900万円）上回る21億1,600万円。畜産物は個体販売や枝肉価格の下落の影響で計画を7%（1億3,000万円）下回り17億5,200万円だった。当期末処分余剰金は6,979万円を計上した。

販売高 4%減185億円 コロナや天候不順で J A 新得町

2021年5月22日

J A 新得町（太田眞弘組合長、組合員146人）の第91回通常総会が21日、同 J A で開かれた。2020年度の農畜産物販売取扱高は、過去3番目の185億4,455万円（前年度比4%減）だった。

主力の畜産物は、コロナ禍に伴う価格下落などの影響で173億875万円（3.5%減）。生乳生産は離農や搾乳停止などの影響で、過去最高だった前年度比2.6%減の4万8,405トンにとどまった。

農産物は12億3,579万円（11.1%減）。6月上旬の干ばつや、その後の低温と日照不足、収穫時期の長雨の影響で、一部の作物で品質・収量が落ちたが、全体的には平年並みの作柄だった。ソバは不作だった前年度比23%増の1万4,252トンだった。

経常利益は2億521万円、当期末処分剰余金は1億4,628万円。

総会は書面議決を中心に開催。太田組合長は「昨年は新型コロナが世界中に広がり、インバウンド（訪日外国人旅行者）需要の消失、輸出の激減、外食産業の低迷で酪農・畜産を中心に大きな影響があった。国のコロナ対策で農畜産物の在庫解消と即効性のある消費回復策を期待する」と述べた。

今年度は2年目となる第8次農業振興5カ年計画に基づき▽コントラクター事業拡充による生産支援体制強化▽人材確保▽地域農業の魅力発信—を3本柱に、各種事業に取り組む。

取扱高3.4%減 146億円 巣ごもりで青果堅調 J A 幕別町

2021年5月26日

J A 幕別町（前川厚司組合長、組合員412人）の第73回通常総会が25日、同 J A で開かれた。2020年度の農畜産物取扱高（共済金など含む）は146億4800万円（前年度比3.4%減）。コロナ禍の巣ごもり需要により青果物などが堅調で史上5番目の取扱高となった。

新型コロナウイルス感染防止のため、書面議決を中心に開催した。

取扱高の内訳は農産物が98億4600万円、畜産物が48億200万円。作物別では、秋まき小麦の総反収（10アール当たりの収量）が9.98俵で製品率は97.16%。ビートは1ヘクタール当たり72.8トンで平年以上の収量となり、糖分は16.1%だった。

そ菜類は主産地の出荷量の低下により価格が高騰し、取り扱い実績は6億9323万円（前年度比4.7%増）。タマネギは5億7388万円（同24.5%減）、ダイコンは3億

8454万円（同0.7%増）、ニンジン15億6150万円（同100%増）だった。

生乳生産量は前年度比0.4%減の1万9101トン。当期末処分剰余金は4億771万円で、事業分量配当として8135万円を計上した。

前川組合長は「昨年度はコロナの影響は最小限にとどめられたが、今後は小麦やでんぷん、バター、生クリームなどの上積みが心配。消費につながるよう生産者と努力していきたい」と述べた。